

校長室だより

共学共高

第
60
号

令和5年11月16日発行

発行責任者

白梅学園高等学校長

武内 彰

沖縄修学旅行～その4

修学旅行4日目は、3つのコースに分かれての体験活動である。すなわち、「西表島・油布島 2島周遊コース」「竹富島 水牛車&サイクリングコース」「シュノーケリング&石垣観光コース」である。私は、E先生と共に竹富島の引率担当である。

ホテルから石垣港までは徒歩1分で到着。ガイドのM氏と対面してあいさつを交わし、生徒たちに紹介をする。船に乗って、約15分で竹富港へ着く。港から徒歩で移動し、竹富観光センターで水牛車観光である。2班に分かれて水牛車へ乗り込む。島内の中心部を回りながら、案内役の方が水牛の紹介をしてくれたり、沖縄の唄を披露してくれたりしながら、赤レンガ屋根の家並みやハイビスカスをはじめとした美しい花を観ながら、観光を楽しむ。

水牛君が途中で2回も大便をしたのには驚いた。狭い道を回るので、直角の曲がり角ではやり直すハプニングもあったが、無事に戻ってくることができた。





続いては、一人一人がレンタルサイクルに乗って、島内を巡るフリータイムである。私は一人で回ると迷子になりそうだったので、E先生と一緒に回ってもらうことにした。西栈橋では海の美しさに思わず感嘆した。栈橋の近くには様々な魚が泳いでいる。アナゴと思しき生物も泳いでいる。天候にも恵まれ、こんな美しい光景の中にいられること自体が幸せだ。次に、コンドイビーチへと移動する。ここも綺麗な砂浜と美しい海面が大パノラマになって味わえるところだ。生徒たちも感動の声を上げている。あるグループが砂浜でハートの形に掘り下げていて、その中にスマートフォンを置いて、ハートの枠組みの写真を撮ろうとしていたが、砂がサラサラでうまくいかなかったようだ。面白い写真の撮り方があるものだ。

続いて、カイジ浜、別名星砂浜へと向かう。手のひらを砂浜に押し付けると星の形をした砂粒を見つけることができるという。何度か試みたところ、一粒だけ星砂を発見したが、すぐに掌から落ちてしまった。うまく見つけた生徒にお願いをして星砂の写真を撮らせてもらった。昼食会場へ向かう途中で、生マンゴのスムージーをいただけるお店があったので、E先生と一緒に入り、注文した。何とも言えない美味であった。





昼食をはさんで、再びサイクリングである。E先生と相談して、「なごみの塔」「診療所」「工房付きのお店」などに立ち寄った。なごみの塔の上へあがると、竹富島の家並みが見渡せて、趣のある様子が見てとれる。診療所を探したが、思うように見つけることができず、あきらめかけたところで、E先生が「こちらではないですか？」と言って、見つけてくれた。まさしく島の診療所という雰囲気建物であった。手作りのバッグなどを製作・販売しているお店では、小さなバッグを購入した。部活動の小物入れとして使う予定である。

最終ゴール地点である、レンタルサイクルのお店を目指す、もはや地図を見てもどこかわからない。たどり着くことができずに、何度も行ったり来たりしたが、ようやくゴールすることができた。生徒たちはまだ到着していないので、少し離れた十字路に立って、生徒たちを誘導することにした。ペダルをこぎながら、20mくらい離れた地点で、生徒「アッ、校長先生だ！」私「この奥を右に曲がるとゴールですよ」生徒「ありがとうございます」こんなやりとりをしながら予定時刻までに全員がゴールしてくれた。さすが白梅生たちである。私の不安を払しょくしてくれたではないか。

生徒たちは日焼け止めを塗って対策をとっていたが、私は帽子をかぶるだけで、日焼け止めは持参しなかった。したがって、両腕が赤く焼けてピリピリすることとなった。E先生を先頭に存分に楽しんだ生徒たちと共に竹富港へ。そして乗船して石垣港へと戻った。

(つづく)



(共学共高とは：本校のディプロマポリシー（育てたい生徒像）の一つで、「共に学び、共に高め合う」生徒の姿を表す）